

平成30年8月25日

福岡医療専門学校
校長 藤瀬 武 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下迫 勇夫

学校関係者評価委員会報告

平成30年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

- 1 学校関係者評価委員会 委員 (五十音順 敬称略)
 - ① 池田 悦子 医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長
 - ② 上野 啓介 うへの整骨院 院長 6期卒業生
 - ③ 北原 孝子 朝日ホーム有限会社 顧問
 - ④ 木下 健一郎 有限会社ひかり(通所介護ライズ) 代表取締役
 - ⑤ 下迫 勇夫 福岡医療専門学校 非常勤講師
 - ⑥ 馬場 鮎美 福岡東鍼灸整骨院 副院長
 - ⑦ 松山 基光 松山整骨院 院長
 - ⑧ 山中 知愛 医療法人 西福岡病院 放射線科 科長
- 2 学校関係者評価委員会の審議スケジュール
 - (1) 自己点検・自己評価報告書の書面審議(平成30年4月)
 - (2) 平成30年6月9日(土)学校関係者評価委員会開催
- 3 学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標 「教育活動・学修成果」について

- 目標に掲げている国家試験全員合格について、柔道整復科、鍼灸科、診療放射線科は不合格者がおり残念である。しかしながら、全学科をとおして合格率は全国ではトップクラスである。鍼灸科や看護科などは出題傾向が少しずつ変わってきており、引き続き目標達成に向け学生一人ひとりに対応したきめ細やかな教育指導を期待する。
- 近年は自分から積極的に行動する学生が減少しているように見受けられ、今後ますます教員の資質が学生教育に影響を及ぼすことが考えられる。

2 重点目標 「職業実践課程」について

- 平成30年5月18付けで文部科学省より、職業実践専門課程証明書の発行が行われ、本学5学科全て認定を受けていることは名誉であり、今後企業や地域への活躍の場に有効に使われることを期待する。
- 文部科学省が認定する職業実践専門課程を通じた教育の質の保証・向上のため、積極的に実践的な教育活動への取り組みが理解できる。引き続き、次の段階である専門職大学の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。
- 教員の指導力の向上を目的とするFD研修会が年2回開催されており、教育に関する指導方法等を発表し合うよう取り組まれていることや、各教員が学会への参加を推奨することは継続して推進してほしい。

3 重点目標 「専門職大学の設置」について

- 福岡専門職大学（仮称）の設置認可申請書を昨年11月末に提出し、設置認可申請に対する是正意見に対応した修正を行っている。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価・意見	4段階 評価平均
<p>○ 最近では、しっかりとした将来のビジョンを持った学生が減ってきている印象である。資格だけとればいい、就職できればいいなど自分の意思がはっきりとしない学生が増えている。入学のための面接の段階で、本質がわかるような面接内容を行ってみてはどうか。</p> <p>○ 挨拶等、社会性を含め、コミュニケーション能力を向上させるような教育を行ってほしい。与えられたことに対してはきちんとかんがえることができるが、自分で考えて実行する力が不足している。挑戦することを怖がらずに楽しみながら行動できるような学生になってほしい。</p>	3.6

2 学校運営

<p>○ 職業実践専門課程の主旨である、実践的な教育活動に対する積極的な取り組みを進めていることが理解できる。引き続き、次のステップアップである専門職大学の設置に向けて学校全体での取り組みを期待する。</p> <p>○ 校務分掌などを明確に運営することで学科の枠を越えて意識が統一されており、職員同士の連携、情報の共有がさらに強化されることを期待する。</p> <p>○ 教育機関で多忙である中、職員が育児と仕事が両立できる環境があることはとてもいいと思う。</p>	3.9
---	-----

3 教育活動

<ul style="list-style-type: none">○ 教員の教え方に差があるのは当然だが、高校を卒業して間もない学生が多く、社会性も培われていない状態なので、社会性も含めた教育方法を更に期待する。難しい科目等も、学生が興味を抱くような講義を工夫しながら、各教員がより良い教育ができる事を期待する。○ 教育に関するFD研修会や校外への研修、学会への参加を推奨されていることは今後も必要であり、教員一人一人の教育に関する指導力向上を常に図っていくように努めてもらいたい。○ 入学時に思い描いたイメージや意志を卒業までの間、定期的に想起でできるように取り組み、卒業後のビジョンがはっきりしているような学生を育成してもらいたい。	3.5
---	-----

4 学修成果

<ul style="list-style-type: none">○ 国家試験合格率は柔道整復師 97.1%、はり師・きゅう師が 93.5%、理学療法士が 100%、診療放射線技師 94.1%、看護師 100%であった。柔道整復科、鍼灸科、診療放射線科がわずかに点数が不足、残念ながら国家試験に落ちた者がいるが、すでに来年度に向けて学習に取り組んでいる。○ 求人倍率は高い数値を維持している。就職を希望する学生は、全員が就職できる状況にある。○ 国家試験合格率が高い水準にあることは素晴らしいことである。出題傾向が変化してきている学科もあるようなので、変化に対応できるように取り組んでももらいたい。	3.5
--	-----

5 学生支援

<ul style="list-style-type: none">○ 臨床実習先で何をすべきか、どう動けばいいかなど目的意識がはっきりしない学生がいる。実習に行く前に目的意識を再認識させ、行動に移せるように取り組んでもらいたい。○ 中学校、高校ときちんと学んでない学生が増え、なんとなく親に言われて入学した学生もいる。各職種の内容を早いうちから認識させ、目的意識が高まるような教育を期待する。○ 担任が一人ひとりに応じて面談し対応している点は、学生教育の基本であり、素晴らしい対応である。	3.5
---	-----

6 教育環境

<ul style="list-style-type: none">○ インターシップにおいて受け入れ側がどう対応すべきかを明確にし、学生の目的意識、意欲面を踏まえて事前に情報を教えてほしい。○ 情報システムが充実しており、社会の最先端を感じさせられる。	3.5
--	-----

7 学生の募集と受入れ

<ul style="list-style-type: none">○ 入学選考方法については、近年、入学後すぐに退学するような学生が増えている状況なので、面接の内容を決まりきった質問だけでなく、個人の個性がわかるような質問や聞き方を取り入れていってはどうか。○ 途中で退学した学生の理由等を分析し、入試で行われる面接においての材料にしてはどうか。	3.5
---	-----

8 財 務

特になし	4.0
------	-----

9 法令等の遵守

<ul style="list-style-type: none">○ 自己点検、自己評価をホームページに記載していることで、より信頼性を得ることができている。また、職業専門実践課程の認定証明書は名誉なことであり、就職や地域連携等に有効に活用されることを期待したい。○ 個人情報の保護は重要なことであり、教員側の対策も大変だと思うが、学生にも重要という意識付けをしっかりと行ってもらいたい。	3.8
--	-----

10 社会貢献・地域貢献

<ul style="list-style-type: none">○ 大学では海外留学生の受け入れ基準の策定が必要なところがあるので、今後検討してはどうか。○ 災害時のボランティア派遣など、医療人として必要なことであり、職員、学生を含めて取り組まれているのは大変素晴らしいことだと思う。○ 地域のことをしっかりと考え、地域のQOL向上につながるような取り組みを今後も期待したい。	3.7
--	-----

11 まとめ

各評価項目の評価は、平均3.7（4段階評価）であり、概ね高水準が維持されている。また、教育の質の向上のため、職業実践専門課程や新たな専門職大学の設置に向けて学校全体が一丸となり、積極的に取り組んでいることがよく理解できた。今後も医療機関との連携や教職員の質向上に対し、積極的に取り組んで欲しい。

しかし、学生の目的意識の低下に関して意見が出ている。今後は、入学時から卒業時に至るまで学生に対して目的意識を持続させ、さらなる人間性の育成について期待する。